

ある自分のつとめなのです。

こうした長い間の与次右衛門の努力は、だんだん実みのつてきました。与次右衛門の教えを守る農民はだんだんふえて、年貢を納められない家は、少なくなつてきました。村の中には、道路にそつて用水路が走り、きれいな水が勢いよく流れていきます。幕内まのうちの野菜やさいは、若松の町で、たくさん売れるようになり、村はだんだん豊かになつてきました。

天和元年（一六八一年）の秋、与次右衛門よじえもんは、役所に来るように、という藩の命令をうけました。何事かと思ひ、羽織はおりはかまに身をかためて、役所に行くど、たくさんたかの武士たちの並ぶところに通されて、

「精農せいノウであるから、賞をささげける。」

という表彰状ひょうじょうじょうをもらいました。

精農せいノウというのは、農業をくふうして熱心な農民であるということです。これ